

議長定例記者会見 会見録

日時：平成27年7月8日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

「第9回紀伊半島三県議会交流会議」の開催について
第1回三重県議会「議員勉強会」の開催について

2 質疑項目

「第9回紀伊半島三県議会交流会議」の開催について
第1回三重県議会「議員勉強会」の開催について
伊勢志摩サミットについて

「第9回紀伊半島三県議会交流会議」の開催について
第1回三重県議会「議員勉強会」の開催について
伊勢志摩サミットについて

6月定例会議の感想について

正副議長と女性議員との意見交換会について

性的マイノリティについて

1 発表事項

「第9回紀伊半島三県議会交流会議」の開催について

(議長)おはようございます。こういった場をもたしていただきましたところ、たくさんの記者の皆さんにお越しいただきました。本当にありがとうございます。三重県議会は情報発信に一生懸命に力を入れているんですけど、事業をやる場所ではないので、皆さん方が満足な形で情報を得られているかをいつも気にしながら来ております。

それでは、7月の議長定例記者会見を開催させていただきます。

初めに、「第9回紀伊半島三県議会交流会議」の開催について発表させていただきます。

第9回紀伊半島三県議会交流会議につきましては、お手元の資料のとおり、紀伊半島地域に共通する課題について、三重県議会、奈良県議会、そして和歌山県議会の三者で意見交換を行うために開催しているもので、今年度は本県が開催県となります。7月15日に尾鷲市の熊野古道センターで開催させていただきます。本県議会からは、私と中森副議長のほか、東紀州地域選出の議員など計9名の議員が出席する予定でございます。奈良、和歌山両県議会の出席者も含めると、27名程度の議員が出席する予定であります。今回は、テーマ

として、「観光振興」、「林業・木材産業振興」、「大規模地震対策の推進」の3つの議題について、意見交換を行うこととしております。今回の交流会議を通じて、三県が共に協力し、より一層の紀伊半島の振興及び発展に繋がっていくように努めてまいりたいと思っております。

第1回三重県議会「議員勉強会」の開催について

(議長)次に、第1回三重県議会「議員勉強会」の開催について、発表させていただきます。

去る6月29日に開催いたしました代表者会議におきまして、ご報告をさせていただきますましたとおり、この度、第1回議員勉強会の開催内容がまとまりましたので、発表させていただきます。第1回目となる議員勉強会につきましては、皆様のお手元に配付しました資料のとおり、7月13日、月曜日、午後1時30分から、全員協議会室で開催する予定でございます。

地方が移住・定住の促進を図るにあたりましては、地域資源の活用によるしごとの創出や、地域への理解と愛着の育成などによる、従来型の価値観とは異なる生き方を提示することが求められていることから、今回は、『半農半X』^{はんのうはんえっくす}という新たな時代のライフスタイルを事例として、地域に人を惹きつけるということを考察し、人口減少社会における移住・定住の促進について理解を深める機会にしたいと考えています。このため、講師には半農半X研究所代表である塩見直紀さんをお招きし、「人口減少社会の移住・定住促進～地域における魅力ある生き方『半農半X』～」をテーマにご講演いただくこととしました。塩見さんにつきましては、総務省地域力創造アドバイザーや京都府地域力再生活動アドバイザー等を歴任されるとともに、塩見さんが提唱されています「半農半X」の考え方は、著書を通じて海外でも共感を集めているところです。なお、塩見さんには、ご講演後、人口減少対策調査特別委員会での参考人質疑もお願いしております。

是非今回の勉強会を通じ、人口減少社会における移住・定住の促進に関する知識の取得はもちろん、議員としての資質向上にも繋げていきたいと考えています。

2 質疑応答

「第9回紀伊半島三県議会交流会議」の開催について

(質問)紀伊半島三県議会交流会議についてですけど、これは毎回持ち回りでやっているということですのでよろしいのでしょうか。開催地については。

(議長) 三県が持ち回りでやっております。

(質問) 議題についてなんですが、「観光振興」と「林業・木材産業振興」、「大規模地震対策の推進」についてございますが、これは他の風水害も含んでということでもよろしいのでしょうか。地震のみということですか。

(議長) とりあえずは紀伊半島全体の地震対策の推進ということになっておりますが、その場でいろんな方から災害がらみでご意見が出てくれば、それが議題になってこようと思っております。

(質問) 三重県において紀伊半島地域を考える際に、必ず紀伊半島水害というものが出てくると思うんですね。その中で、県議会として、現在、復旧であったり、復興であったりというのをどのように認識していらっしゃるかと、今回は広域での会議となりますので、どのように提案していくかというのがもしあればお願いします。

(議長) 紀伊半島三県議会交流会議は交代制で、今回の場合は三重県が主催県という形になっておりますので、三重県側からテーマを出しているわけではございません。三重県以外の和歌山県と奈良県からのご意見ということだけでいたくのですが、協議の時間をゆっくりともっておりますので、こちらの方からも関連でいろいろ質問が出る可能性はあると思っております。

第1回三重県議会「議員勉強会」の開催について

(質問) 議員勉強会ですが、この後のご予定とか、こういう方を予定しているというものが、もし決まっていればお願いします。

(議長) 今、具体的に次は何をするということは決まってないんですが、その時期のタイムリーなテーマを探して、検討して進めていきたいと考えております。議員勉強会自体は、これからも各議員の資質向上ということもございまして、今回のようにまさに一番動いている議論のところということもございまして、時期に応じた形でやっていきたいなというふうに思っております。

伊勢志摩サミットについて

(質問) 先日も警察庁の長官が視察に来られてまして、テロ対策も含めて警備対策というのが必ずサミットになると課題となってくると思うんですが、そういったところも含めて、議会としてどのように動いていかれるのかということをお伺いしたいのですが、現段階で議員提案で何か決めようという方向性があ

たり、こういった条例が必要なんじゃないかというのは、どのように認識されているのかというのをお聞きしたいんですが。

(議長) サミットにつきましては急遽決まったということで、「伊勢志摩サミット三重県民会議」の方にほとんどの議員の方々に顧問として入っていただくということで関わっていただき、そして私も副会長という立場で大きな枠の中では入らせていただきますが、サミットの成功に向けて、成功というのはひとつはサミットのテロ対策がきちんとやれるかどうかということ、そしてまたサミットが一過性に終わらないように、三重県を世界中に売り出す千載一遇のチャンスというふうにとらえておりますので、先も見据えた形での議論をしていただくのはそれぞれの常任委員会をお願いするという形になるというふうに思っております。今は私どもの議員で「伊勢志摩サミット三重県議会議員協議会」をこしらえまして、これは応援の思いを込めて大多数の議員さんに入っていて進めていきたいなと思っております。個々の住民からの意見だとか、あるいは住民に不都合な交通の便の関係だとか、先ほどのテロ対策とか、そういった部分につきましては常任委員会ですっきりと議論をしていただける形になるのではないかと思っております。今まだ中身も見えていない部分がございますので、出てくればそういった形でそれぞれの常任委員会等々を活かしていきたいなというふうには考えております。

- 第二県政記者クラブも含めてどうぞ -

「第9回紀伊半島三県議会交流会議」の開催について

(質問) 振り出しに戻りますけど、紀伊半島三県議会交流会議ですが、この議題、「観光振興」、「林業・木材産業振興」、「大規模地震対策の推進」とありますが、和歌山と奈良の県議会議員の方たちに特に何を聞きたくて、何をアピールしたいですか。去年、現場 de 県議会で、尾鷲で地元の森林業者の方と三重県議会とはこういう座談会的なものをもたれてますよね。そこで結構、林業振興策とかのテーマが出てたと思うんですけど。

(議長) 私どもが今考えておりますのは、地域おこしのような感じでですね、三重県が主催なんですけど、当日、議論のテーマは奈良県さんと和歌山県さんからのテーマに基づいてやるんですけども、こちらから少し今議論しておりますのは、「地域おこし協力隊」で活躍している方を講師でお招きして、人口減少とか高齢化、多分この三県の直面している大きな課題だと思いますので、そういったことに対応できるような、そういう現地で頑張っている皆さん方からお話を聞かせていただこうかなとは思っております。

(質問)ということは、この2時からの講演というのは、講師は地域おこし協力隊の方がやられるということですか。

(議長)はい。地域おこし協力隊として活動されている方をお願いしようかなと思っております。

(質問)お一人ですか。

(議長)お二人をお願いしようかなと思っております。

(質問)できれば午前中にお二人のお名前と簡単な略歴を出していただけますか。

(議長)分かりました。お名前はですね。

(質問)字面も必要なんで。

(議長)ペーパーとして資料提供させていただきたいと思います。

(質問)地域おこし協力隊の方たちに、尾鷲、熊野、東紀州にいられている方たちに、どういう活動しているのかというのを中心にお話しただいて、という話ですよ。

(議長)今まさに東京一極集中の課題だとか、地方都市の衰退が非常に進んでおります。人口減少問題がクローズアップされておりますので、地域おこし協力隊の方々の考え方を聞かせていただくということ自体、非常に紀伊半島三県の議会にとっても有意義ではないか、意味深いものではないかというふうな考え方でお招きをすることにしております。

(質問)ただ、会議は12時半から、その前に先立ってやられるじゃないですか。

(議長)会議はですね。

(質問)要はそこで、さっき申し上げたように議題3点についてどういう話を。具体的に云々とかおっしゃってますけど。これは三県知事会議とどっちかって言うとセットの部分があるじゃないですか。前回の三県知事会議で出ていたの

は、登山マラソンで言うんですか、最近登山を兼ねながら何日間かけてマラソンをする、フルマラソンじゃないですけど山岳ラリーみたいなやつが、結構和歌山県の仁坂知事は乗り気で、奈良県もそれでいくと。三重県も検討してみるってところで終わってるんですね。そういうテーマを引き継いで話はされないんですか。

(議長) ちょっとその辺の経過を私の方は把握はしてないんですが。

(事務局長) 今回、大きくは「観光」、「森林」、それから「地震対策」というふうに3つありますけど、例えば観光の中でスポーツイベントと関連して観光振興をやってはどうかというようなテーマも提案をされておりますので、そのことについても3県で話していくことになると思います。

(質問) もちろん三県知事会議でも観光振興の中で和歌山県知事が提案して、3人の知事で一応ある程度のところに話を詰めたという経緯があるわけですよ。だから当然、今、局長がおっしゃったような形でいくのならば、そこから約1年近く経つので議会としてはどう考えているのかなと思ったんですけど。じゃあ議会はあくまで現段階でスタートラインということですか。まあいいです。今回そういうテーマも出るかもしれないということですね。

(議長) また、あれどうなっとんのや、と和歌山県の知事から。知事ていうか、知事は出てないんでね。

(質問) 三県知事会議は知事3人の話です。

(議長) その時にね。

(質問) 多分、今年もあると思います。多分、三重県が開催県でしょう。

(議長) 知事部局にどんな状況なのかを確認をとらないと分からないですね。

第1回三重県議会「議員勉強会」の開催について

(質問) 勉強会そのものは、さっき質問に出てましたけど、今後の日程というのはまだ決まってないんですね。

(議長) 今はまだ決めてないんですが、議会の全議員が寄る場面とか、そういったところを活用させていただきたいと思います。

(質問) 要するに、大体、年に何回くらいの予定なんですかということです。

(議長) 機会がうまく合えば、定例会議ごとにできればという感じはありませんけどね。

(質問) でも予算の関係もあるので、それと日程とか、定例会の議事日程の関係もありますので、普通なら年3回とか4回とか、ある程度のくりがあるはずじゃないですか。やみくもに、これをやったから次やろうとかいう話にはならないですよ。

(議長) そうですね。今回やりますので、あと3回以内ですよ。

(質問) 年4回ぐらい予定しているということですか。

(議長) 最大ということで。

(質問) 最大でね。

(議長) ただ、サミットとか、結構いろいろなものが入ってきておりますので、議会日程との調整をしていきたいなというふうに思っております。

伊勢志摩サミットについて

(質問) サミットの関係ですけど、サミットの誘致が決まる前に、知事がぶら下がり会見等で、ドローンの規制条例みたいなのを作っていきたいという話になっていますけど、県議会としてはそれへの対応を含めて、なんらかの動きというのはあるんですか。それとも、向こうさんがある程度原案を出してきてからの話ということですか。

(議長) 今のところ、私見ですが、知事部局がそういうことを議論し始めるのであれば、しっかりチェックをしていくという立場かなというふうに思っております。

(質問) 関連してですね、今日、政策討論会議がありますが、人口減少対策調査特別委員会を含めて、比較的、少子化とか、少数化とか、あるいは過疎地の問題とか、そのところでテーマが重なってるじゃないですか。結局、特別委員会を設置しても議員枠が広がっただけで、当局から出てくる説明も、当局の

顔ぶれもほとんど変わらない。見方によっては屋上屋を重ねててですね、審議そのものがだぶっている感じがするし、じゃあどこが主体をもって議会の意思を示すかといった時に、制度的には常任委員会だと思うんですけど、そことの整合性も欠くわけで、それからいくと、特別委員会というのを年の途中とはいいいながら鞍替えすることは可能なんですか。それとも、それはまったく無理なんですか。サミットが決まったんで、本来なら伊勢志摩サミットの特別委員会的なものが仮にできて、警備の強化であるとか、あるいは予算の問題であるとか、賢島にひょっとしたらヘリポートを作らなきゃいけないかもしれないですね。そういうことを含めて、議会としてある程度議論を詰めるということは、少子化対策と同じくらい重要度が高いと思うんですけど、その辺、議長はどういうお考えですか。

(議長) サミットに関して、議会としてそれに対応できるものをどうなのかというご意見をいただきました。議会といたしましては、今のところ、まずはご案内のとおり、このサミットを応援していこうという部分で意思確認をしたところでございます。その後、議員の方からもチェック機能を果たすための特に別の組織を作っていこうという声があがってくれば議論もしていきたいなと思っておりますが、今のところ、他県では特別委員会を作ってやっているところもあるかとは思いますが、まだ執行部側の今回のサミットに対する具体的な動きとか提案とか、そういったものが出てきておりませんので、それを見ただ中で、もし議員間で、これは引き続き今回の特別委員会の後やるべきだとか、あるいは重ねてということが高まってくれば必要かというふうに思っておりますが、今のところ、できれば今の常任委員会の中で議論できればという思いは持っております。ただ、政策討論会議とかが結構かぶってきておりますので、特別委員会、政策討論会議の進み具合と様子もちょっと見ていきたいなというふうに思っております。

(質問) サミット関係の議員連盟がこの前立ち上がってるじゃないですか。あそこに公費をつけるかどうかはともかくとしてですね。あれが議会全体の、特別委員会は作らないまでも、ある程度議会の意思を統一して当局側に出すような、そういうものにあの議員連盟はなるんですか。

(議長) 三重県議会議員協議会という形になっておりますので、公の部分、税金を使って動く部分ではございませんので、あくまでも応援団的な形でございますので、これがいわゆる政策チェックをするものではないということですので、今おっしゃったような形にはなりづらいかなと思います。

(質問)ということは、今、議員として意思表示をする場というのは、県民会議における顧問の立場での発言ということですね。我々も不肖同じ顧問という格付けになっているわけですが、メディアもね。県民会議の名簿をご覧になったらお分かりだと思いますけど。我々と一緒にいいのか分からないですけど。そこの場くらいしかないわけですよ。

(議長)当該の常任委員会なり、あるいは大きな予算変更とかいろんな提案がされてきた時には当然、全員協議会等もありますので、その時の状況をしっかりと見据えた上で、議会組織としてきちんと対応したいなと思っております。

6月定例会議の感想について

(質問)6月定例会議が終わりましたが、会議全体を振り返ってですね、新議員が入り替わっての初めての本会議でしたが、その辺、何かご感想があれば。

(議長)新しい議員の皆さん方、私が20年前に初めてここへ足を踏み入れた頃と比べますと、新しい議員の皆さん方の政策を発言する、あるいは議会への対処、慣れと言いますか、非常に完成された議員さんが多かったなど。市議さんを経験された方が多かったのかもわかりませんが、私自身聞かせていただいて、新人だけれども慣れているなということと、極めて発言力も発言回数も多いように思いましたし、しっかりされているなど、三重県議会全体としてですね、すごく全体としての能力というのが上がってきたんだなど、率直にですね、自分と比べてそういう思いをさせていただきました。素晴らしい議員さんばかりだなと思いました。

(質問)要はいい会議だったという話ですか。

(議長)非常に意見が活発に出されてよかったかなというふうに思っております。

(質問)例えば制度上はできるわけですけど、共産党さんの2人の県議が、反対討論はない議案に関して、意見書ですけど、賛成討論されたじゃないですか。本来的に反対討論があってはじめて賛成討論とか、どちらかというとならば対のものだというのが議会のだいたい慣例だと思うんですけど、もちろんできないことはないですが、本来、議会運営委員会なり、あるいは議長の裁量で、反対討論のないものを、どちらかというとならば党名を売り込むためだけのようない賛成討論というのは、議会運営上好ましくないとは思われませんか。

(議長) 議員の思いを議場で訴えるという原点に戻ればですね、問題がないんじゃないかなと個人的には思いますけれども、決めた経緯の中にはですね、議会運営委員会の中で提案をされて、そして決められたというふうに理解しておりますので、一定の手続きを経られて間違っていないことだというふうに捉えております。

(質問) 議会運営委員会そのものが必ずしも一定レベルでずっと維持されているというわけでもないし、議会そのものも議員の入れ替えによって一定レベルに維持されているわけでもないじゃないですか。それからいけば、過去の議会運営委員会等で、ああいうふうに誰も反対がないのにもかかわらず賛成討論だけするということが、非常に私が知る限りではイレギュラーな感じがしたんですけど、その辺も別に違和感はないわけですね。

(議長) 私はあまり違和感ございませんでした。議会運営委員会できちっとあれだけの議論の中で出されたので、というイメージですけど。

(質問) それは少数会派へのある程度配慮とかということもあると思うんですが、もしそうであるならば、本来的に少数会派、一人会派であろうと、そこに1万3000人くらいの有権者がぶら下がっているというふうに代表者会議等でも出た話なんて、そのことに従うならば、代表者会議等に一人会派であろうと1名出すというのが本筋だと思うんですけど、それを傍聴という形にしておいて傍聴席から発言をさせるというのは本来イレギュラーじゃないですか。そういう議会運営というのは、中村さんは議長2年ですから、この2年間ずっとそういう形で続けられるおつもりですか。

(議長) 議会の運営のやり方につきましては、多くの議員の皆さん方とも相談もさせていただきながら、というふうには思っています。

(質問) それはいつですか、相談というのは。今は相談する必要がない、それとも問題も起きてないからこのままいくという話なのか、それともやはり議長任期2年目迎える来年はこここのところを整理してみたいとか、そういうお考えですか。

(議長) 今のところ通年の中で途中でということは考えておりませんが、一つの区切りで1年こんな形でやってみてどうかなという結果の総括的なものも、できればですね、代表者会議等でご意見を聞く必要があるかなとは今思っております。

正副議長と女性議員との意見交換会について

(質問) 女性県議との懇談会ですか。その辺は感想はいかがですか。

(議長) 基本的に私自身が今回、女性県議との懇談を開いた目的はですね、初めて私が20年前に県議会に来た時に、たった一人の女性の議員さんが28年ぶりに県議会に来られたと。その時のご苦労というのをいろんな発言の中で、私も関連質問等々をしながら感じておりましたので、それが2人になり3人になり、今6人になったということで、そのプロセスがあるわけなんですけれども、その中で本当に女性の声が反映されているかどうかということになってまいりますと、人口の半分、いわゆる天の半分が女性であるにもかかわらず、それがなかなか完成の部分まではいってないということもあって、なんとかですね、6人の方の声を聞きたいなということで開いたんですけれども、一人一人の発言をずっと聞かせてもらいましたけれども、非常にしっかりとした考え方をお持ちですので、素晴らしい議員の皆さん方からいろんな面でご教授いただいたなというふうに思っておりますし、できたらこの思いをですね、女性の県民の皆さんの声につながるような形に展開をしていくことができないだろうか、そんなことを彼女たちに相談していきたいなというふうに思っております。良かったと思います。

(質問) 懇談会そのものが、まだあと数回、開くつもりですか。それともこの一回で終わりですか。

(議長) 今のところ考えておりますのは今回の一回というふうに思っておりますけれども、ただ次に県民の皆さんとの交えたものにしていくにはどうだろうかという、個々にそういうことを相談する場を持ちたいなとは思っております。

(質問) 議長個人のお考えではなかなか表明できにくい部分もあると思うんですけど、三重県議会そのものとして女性議員の比率というのは、国が言うような約3割であるとか、そういう数値目標的にいうとですね、どのくらいが適正だとお考えですか。

(議長) 私、個人的にですか。

(質問) 今、議長でいらっしゃるから、議長のお立場の話になると思いますが。

(議長) 少しでも5割に近づけばいいかなという漠然とした感じを持っています。

すが、現実の壁は大きいのかなというふうに思っています。特に具体的なものは持っていませんが、半々ぐらいになって近づけばいいと思いますが、現実の壁がきついんじゃないかなというふうに思いますね。

(質問) 半分というのは全教組の書記をやられた山村ふさ先生の言葉でいうところの天の半分という意味合いで、そういうふうにおっしゃっているんですね。

(議長) そうですね。本当はそうなんですよね。だけど、現実是非常に厳しい。

(質問) だとすれば、複数選挙区で女性議員枠を設けるといって、市議会レベルとか、区議会で一部ありますけど、その辺というのが県議会の改革につながると思われませんか。

(議長) 個別具体論になってまいりますと、候補者探しだとかですね、いろんなことが出てくると絵としては描けても、実際に募集とか、応募される方を探したりとか、非常に厳しいものが、やっぱりそういう厳しい現実ががばっと頭の中に占めてしまいますね。

(質問) いや応募者の話じゃなくて、ハードルを下げれば応募者は増える可能性があるじゃないですか。だから、複数区で例えば津が今7だったら、7のうち1名は女性議員枠にすると、ただ男性議員が当選した場合は6人であって、必ず1人、女性議員は1人どなたかが当選するわけですよ。そういうふうなことをやられている区議会とか市議会がありますけど、議会改革を進めたいというふうに議長はもともと就任のときにおっしゃったんだから、県議会が手をつけていない改革のこれからの手段というのは、そういうところもあるんじゃないですかという話です。それについてはどう思いますかということです。

(議長) なかなか私から言い出せるような状況ではないような気がしますが。

(質問) そんなに権限が弱かったですか。

(議長) なかなかね、大変ですね、それは。現役の女性にまず頑張ってもらわないといけないような気もするし。いい方法ですけどね。いい方法だと思いますが、私にそれができるかと言われると、ちょっと自信がありませんね。

(質問) 就任の時に、議会改革がちょっと最近滞っているんじゃないかと。できれば県民の意見を聞きたいというふうにおっしゃいましたけど、本来議員

というのは各地区の県民、有権者の意見を聞いて成り立っているものであって、今さら複数期数を重ねた議員の方が県民の意見を聞きたいということは、ほとんど議員活動していないのと等しいというふうな見方もできるわけで、それからいくとですよ、少なくとも改革の方向というのは、そこよりもさっき申し上げたような女性議員の枠を設けるであるとか、あるいは少数会派がこれだけできてしまっている以上、一人会派の部分というものを、一応正式会派ではないですけど少数会派と認めて部屋も与えている以上ですね、そこから代表者会議に一人を出すとかいうのは、それはある意味議会改革につながると思うんですけど、まだそこまでのお考えにはいたっていないということですか。

(議長)今おっしゃったまさにそのとおりだというふうに思いますが、個々の議員が当たり前のことなんですけれども、地域住民の声を引き出すための活動を全員が展開をしていく、その形づくりを私どもの方でやっていくことも大事なかなと思っております。その方がじわっと底上げされるんじゃないかなという感じもします。

性的マイノリティについて

(質問)6月定例会月会議の中でマイノリティの質問が初めて県議会史上出されて、それに対して当局答弁があって、人権保障の観点から必要だ、あるいはサミットの宣言の中に書かれているので、三重県の伊勢志摩サミットにおいてもそういうものにふれたいというふうに知事は答弁されましたけれども、この前、アメリカ連邦最高裁判所がですね、同性婚を全州で認めるという判決が出ましたけれども、この三重県議会でもマイノリティを質問されている議員もいらっしゃいますが、そういうことも含めてマイノリティに関する議長のお考えというのはいかがですか。

(議長)私は非常に遅れているというふうに自分でも質問を聞いて思ったんですが、そういった課題が少しずつ大きくなってきているんだなということを率直に感じさせてもらいました。質問者の方も結構勉強会もされているという情報もあるんですけれども、そういったところに非常に遅れておりますので、原点から学ぶ必要があるのかなというふうな感じですね。だから、そういう課題を今しっかり、こういう課題があるんだから今すぐにこうやれみたいなどころまでいくための勉強をしないといけないかなというふうに思っております。

(質問)ただ切実な問題として、一般質問でも若干ありましたけど、同性婚では県営住宅に入れないとか、今の規約がそのところ想定していないので、そういう現状があるじゃないですか。そのところをこれだけ同性婚を認めると

いう世界潮流が仮にあるとして、私あんまりそれに賛成しないんですけど、ただ潮流がある以上、そこのところは勘案していかなきゃいけないと思うんですが、県議会として県施設云々で同性婚とか、あるいは証明書云々とか、その辺で引っかかる部分についてはどういう対応をされますか。それも検討したいという話ですか。

(議長) 現実そういう状況が課題としてあがっているということであればですね、議論をする必要はあるんじゃないかなというふうに私は思っております。

(以 上) 11時11分 終了